

4 研究のまとめ

(2) 研究の成果と課題

本研究における成果と課題をまとめました。

○成果 1 「身に付けさせたい力を明確にし、生徒がその力を身に付けることができるように単元計画を立て、対話的活動を取り入れた授業ごとに授業デザインをする」という本研究の手立ては、思考力・判断力・表現力を育成することに効果がありました。

本研究で定義した対話的活動を取り入れるだけというのではなく、身に付けさせたい力を明確にすることで、対話的活動の必要性も明確になり、単元内のどの授業で対話的活動を取り入れればよいかも考えやすくなりました。また、生徒にその力を身に付けさせるためにはどのような対話的活動にすればよいのか工夫することにもつながり、1時間ごとの授業のデザインができました。このことで、しっかりと先を見通して授業をすることになり、思考力・判断力・表現力の育成につながったと考えています。

○成果 2 対話的活動によって、主体的に学ぶ姿勢が生まれ、生徒の考えが広がったり、深まったり、確かなものになったりしました。

各授業実践の考察から、対話的活動を取り入れた授業を行った結果、生徒の変容が見られました。対話的活動を取り入れた授業を続けることで、更に思考力・判断力・表現力を育成できるのではないかと考えます。

○成果 3 生徒が授業を振り返る時間を作ることは、生徒にとっても授業者にとっても有意義であることが分かりました。

対話的活動を取り入れた授業では、生徒が授業を振り返るためにリフレクション・シートを記入させました。生徒にとっては再度本時の学習内容を考えることにつながりました。授業者にとっては、生徒の理解が不足している点が可視化されるので、それを基に次の手立てを考えることができます。

授業の最後に振り返る時間を設けると更に効果的なので、その時間を組み込んだ授業デザインが必要と考えます。

○課題 1 対話的活動を取り入れた授業において、ワークシートの設問を工夫したりワークシートを記入する時間を確保したりする必要があります。

対話的活動を行うと、生徒たちは対話中心になり記録を取ることができない様子が見て取れました。対話的活動での授業者側の指示を明確にするのはもちろんですが、スモールステップの設問の設定、記入する時間の確保などの工夫が必要であることが分かりました。

ワークシートの設問において、選択肢を設定することで発言の苦手な生徒でも意思表示ができるということも分かりました。ただし、選択肢には「その他」を設けて生徒の考えを広げることが必要であると考えます。

○課題 2 生徒の学びを深めるためには、生徒の気付きにつながる発問や声掛けの仕方やタイミング、生徒の発言の広げ方、対話しやすい環境づくりなど、授業スキルの向上が必要です。

生徒が変われば授業者の対応の仕方も変わります。目の前にいる生徒を見ながら対応できるスキルが必要であることが分かりました。授業者が自分の授業を振り返りながら、スキルを向上させていくことが必要と考えます。

終わりに

平成 28 年度は、白石高等学校、佐賀西高等学校、三養基高等学校、神埼高等学校、唐津南高等学校において、本研究の検証授業を行いました。

平成 29 年度は、高志館高等学校、鳥栖高等学校、佐賀西高等学校、白石高等学校、牛津高等学校、唐津青翔高等学校において、高等学校理数教育における思考力・判断力・表現力の育成を目指した、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくりを提案する公開授業を開催し、多くの先生方に参会していただきました。

貴重な御意見、御感想を頂いたことで、本研究の成果と課題を明らかにすることができました。本研究の成果を、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践に還元していただければ幸いです。多くの先生方の参会に感謝申し上げます。

また、本研究に携わっていただいた 10 名の研究委員の先生方に、深く感謝、御礼申し上げます。

最後に、本研究にご協力いただきました、検証授業会場及び公開授業研究会会場の皆様へ深く感謝、御礼申し上げます。